

宮前ガバナンス5月号

連載寄稿 市民ミュージアムもつと魅力的な演出を

川崎市議会議員 石田やすひろ

創立25周年を迎えた市民ミュージアムは芸術・文化の発信拠点として親しまれています。収蔵資料や作品は20万4100点と国内でも屈指の規模。市ゆかりの物品や世界の逸品を見ることもできます。しかし、その管理運営は市民ミュージアムとしての強みを十分に活かしきれていません。



川崎市立大蔵中学校卒業、明治大学大学院（公共政策修士）修了、国会議員の秘書を経て1999年28歳初当選。現在4期目。子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会で提案し多数実現をしている。議会発言後は、必ず新聞や広報誌を作成しその内容について積極的に市政報告を実施。

その他ブログ等は

市議会議員 石田やすひろ

検索

昭和63年の開館から3年間は、20万人の総利用者数で推移し、平成12年には8万1674人の最低を記録。経営の視点で捉えれば、14年の収支比率2・55%から19年の6・67%まで上昇したものの、その後は下降し5%の低水準です。16年2月の包括外部監査では「民間であれば倒産状態」

とまで指摘されました。

18年度から市民ミュージアム改革が本格的に図られ、経営形態を委託から直営にし、23年3月には「市民ミュージアム改革の進捗状況と今後の3年間の取組方針」が示され、基本方針

に基づいた対策がとられてきました。今年度はこの「取組方針」最終年に当たります。位置づけられた「めざす姿」の実現に向けて引き続き、検証と改善を続けるべきだと考えます。

また今年度は「市民ミュージアム25周年記念事業」



市民ミュージアムの地下にある収蔵庫。私が手にしている道具は、かつて川崎の海で利用していた海苔の道具。かつて海苔が沢山採られていた。

として特別展が開催されます。新たな芸術家の育成を目的とした現代美術の祭典で「新世代アーティスト展」「マンガ・アニメ祭り」「カワサキ・シテイ」が開かれるとのこと。周年事業に対しては民間のミュージアムにはない公立ならではの福祉面へのアプローチや、若手の発掘と育成に向けた取り組みにも期待しています。市には引き続き「市民ミュージアムの魅力」の創出に努めるよう働きかけていきます。